

ぼく・私の
お気に入りの論語

今回は私が紹介します



読んでみたい

論語

その59

市内小中学校では、平成27年から「論語」を学んでいます。「論語」には、古代中国の思想家孔子が考える、人としての生きる道や道徳が示されています。

私の学校では、毎月「四」あわせ（しあわせ）生活目標を決めて取り組んでいます。しあわせ生活目標とは、まず四つの「あ」で始まる「あいさつ」「あせ」「あい」「あ」としまつ」を順番に各月の目標にします。そこから自分で決めて行動していくことで、学校をよりよくしていくこうとするものです。

私は、「あいさつ」では、立ち止まり大きな声であいさつをするように心がけています。朝のあいさつ運動にもできるだけ参加するようにしています。「あせ」では、そ

豊福小学校 6年 松田 彩那

うじを無言で行うことや、先生や友達の手伝いを進んですることを意識してがんばっています。「あい」では、ありがとうの気持ちをしっかりと伝えることや、友達と仲よく過ごすことをいつも考えています。「あ」としまつ」では、身の回りを整理整頓し、気持ちよく過ごせるようにしています。

「苗にして秀でざる者あり。」は、努力の大切さを私たちに教えてくれています。このしあわせ生活目標に取り組み中で、小さな努力をしつかりと積み重ね、よりよい豊福小学校をつくりあげていきたいと思っています。

子曰わく、
「苗にして
秀でざる者あり。」と。

先生は言われた、「せっかく芽を出しても、成長しない人もいる。一生けんめい努力をすることが大切である。」と。

地域の相談パートナー

人権擁護委員から

今回は、第39回全国中学生人権作文コンテスト県大会の入選作品を紹介します。この大会は、豊かな人権意思尊重を根付かせることが目的で、今年度は25,491点の応募がありました。



「教育を受ける権利」

松橋中学校 2年 西村 亜希子

私は毎日のように、子どもが犠牲となって交通事故死、虐待死、自殺などのニュースを耳にします。そして、それを耳にするたびに、自ら望んで犠牲になり死んでしまった人はいないと思うと悲しくもあり、くやしいです。その中でも、中学生として学校でのイジメが原因の自殺の報道をきくと、イジメはあつて欲しくなく、一番許せません。現在私は、脳腫瘍の再発で治療中です。幼稚園の年長のときに病気が分かり、そのときは長い入院生活を送りました。しかし、今は大病院の中にも外来化学療法センターができ、学校

熊本日日新聞社賞

側の協力も得られ、同級生の助けもあり、地元の中学校に登校することが出来ています。今は、体調に合わせて登校しているので、みんなと同じように学校生活を送ることはできませんが、それでも、二時間でも三時間でも授業に出られることに意味があると感じることが出来ます。私のように、ガンと闘っている子どもにとっての学校とは、将来の夢を叶えるための学びの場であり、生きていくための希望でもあります。だからこそ、私は学校が舞台となるイジメが絶対許せません。私にとっては、イジメた側も、そのことで自殺してしまった側も許せません。イジメた側の人に対しては、言語道断。誰であろうと、イジメる権利はありません。イジメられた側も、もし、自殺を考えたことが一度でもあるとしたら、その前に、勇気を出して、声をあげて誰かに話をして欲しいです。どこかにきつと、今の現実からの抜け口が見つかると思います。私とイジメで苦しんでいる人を比べたらいけないと思います。私は、ガン治療で気持ち落ち込んだり、不安になることがあります。だから、カウンセリングを定期的に受けています。親や友達に話せないことでも、話を聞いてくれるので、一人で悩むよりは、少しでも気持ちが軽くなります。私は今までの入院生活の中で、同じようにガン治療を頑張ったのにもかかわらず、命を落とした友達を何人も知っています。生きるための治療を頑張り、短いながらも一生懸命生き抜いた友達です。病気で死んでいったしまった友達にも、きつと将来の夢があったはず。今、中学校生活を送っている人たちは、親から健康な体をもらい、どれだけでも頑張ることができると思います。誰であろうと、人

が生きる権利、教育を受ける権利をうばうことは許されません。世の中には、生きたくても生きられない命もあるのです。イジメたことがあると思つた人、イジメられたことがあると思つた人、どちらも、もう一度立ち止まって、考えなおして欲しいです。学校に通うことはあたりまえのことで、意味を考えることはほとんどないと思います。しかし、私のようにガンと闘っている子どもにとって教育を受ける権利、そして、学校が「生きる希望」ということも理解してくれると嬉しいです。

県教育委員会賞には、
豊野中学校3年
石原晏史さん
「私は私のままでいい」
が輝きました。